

林 重雄¹：愛知県田原市にオオバヒルギの漂着

Shigeo HAYASHI¹ : *Rhizophora stylosa* Griff. stranded on the beach of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

オオバヒルギ *Rhizophora stylosa* Griff. は、ヤエヤマヒルギともよばれ、ヒルギ科オオバヒルギ属に属する。本種は主に海岸湿地に生える常緑木本植物である。熱帯では10mを越える高木になるが、日本ではそれほど大きくなり、幹の下部から多くの支持根が八方に広がる。東アフリカから東南アジア、オセアニアの熱帯および一部の亜熱帯に広く分布し、日本の分布域は八重山諸島から沖縄本島までとなる(瀬戸口 2016; 中西 2017)。種子は胎生で落下前に発芽する。ヒルギの仲間の胚軸は落下後、母樹の近くで泥中に挿されるより海水により遠方へ流されるのが主である(正宗 1956)。オオバヒルギの胚軸の漂着は、自生地以外では福岡県、山口県、和歌山県、愛知県から知られている(中西 1999; 久保田ほか 2008; 林 2017)。

漂着記録

筆者は2020年8月29日、愛知県田原市堀切海岸で(図1)漂着物の調査中に低潮線に沿った漂着物密集帯でオオバヒルギの胚軸の漂着を確認した。調査日の干潮は9時2分で潮位が49cm、満潮は16時20分で潮位が163cmであった。調査時は上げ潮によって新たな漂着物が低潮線(汀線)に現れる状況であった(気象庁ホームページ 潮位表 赤羽根)。

発見時(13時)の天候は晴れ、最寄りの伊良湖のデータによれば気温32.2°C、南南東の風、風速3.7m/sであった(気象庁ホームページ)。

オオバヒルギの胚軸は欠損も無く完全なもので長さが535mm、幅が最も太い部分が17.5mmで、質量は74gであった。胚軸表面の色は暗緑色で光沢のある非常に新鮮な状態であった(図2)。表面には7~13mmのカラエボシとコケムシ類の付着が認められた。

随伴して見られた漂着物は、直径が3~40mmほどのギンカクラゲで、上げ潮によって低潮線上で重なるほどの密集帯もあった。

これまでに渥美半島ではメヒルギ、オオバヒルギ、オヒルギの漂着が確認されており(林2017, 2019)、淡水のもとで育成を試み、メヒルギでは発芽と根系の発生を確認している。今回漂着したオオバヒルギも同様な状態で観察を継続中である。

謝辞：北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 林 重雄 2017. 愛知県渥美半島にヒルギ類の漂着. 漂着物学会誌 15 : 19-20.
林 重雄 2019. 愛知県渥美半島にオヒルギの漂着. 漂着物学会誌 17 : 21-22.
気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) (2020年8月30日閲覧)
気象庁ホームページ 潮位表 赤羽根. (<https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/tide/suisan/suisan.php>) (2020年8月30日閲覧)
久保田信・榎山嘉郎・中西弘樹 2008. 和歌山県白浜町番所崎およびその近隣海岸へ夏季の短期間に集中漂着した熱帯起源の植物散布体. 漂着物学会誌 6 : 25-26.
正宗巖敬 1956. 植物地理学新考. 166pp. 北隆館, 東京.
中西弘樹 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.
中西弘樹 2017. 日本の海岸植物図鑑. 271pp. トンボ出版, 大阪.
瀬戸口浩彰 2016. ヒルギ科 RHIZOPHORACEAE. 改訂新版日本の野生植物3 (大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 編). 338pp. pp.145-146. 平凡社, 東京.

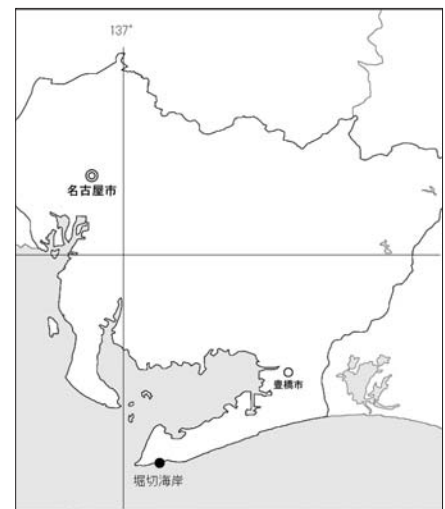


図1 愛知県田原市堀切海岸の位置

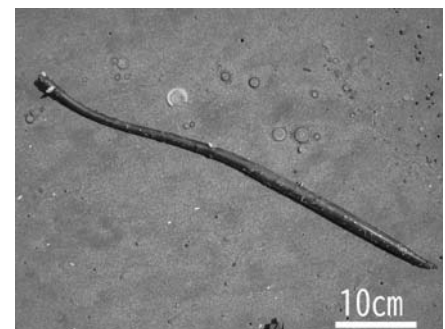


図2 愛知県田原市堀切海岸に漂着したオオバヒルギの胚軸

(Received Sep. 5, 2020; accepted Sep. 30, 2020)

¹〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan